

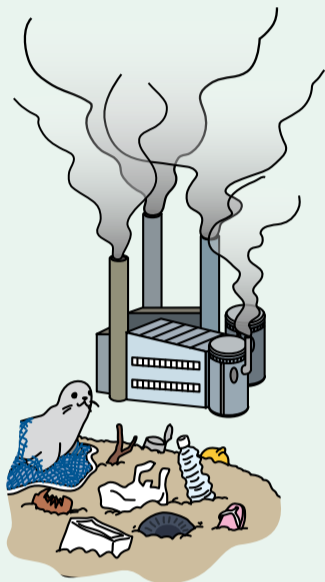
プラスチックが抱える課題

プラスチックは作るとき、処理するときに環境への負荷がかかります。また、リサイクルするときもすべてを資源化できるわけではなく、さまざまな課題を抱えています。

プラスチックを

作るときの課題

- ▶原料となる化石燃料(天然資源)の枯渇
- ▶製造する際、二酸化炭素が排出される



処理するときの課題

- ▶細かい分別が必要、コストがかかる
- ▶国内の再資源化の体制が整っていない
- ▶かさばるため輸送効率が悪く、燃料を多く使う
- ▶燃焼する際、二酸化炭素が排出される
- ▶海洋プラスチック問題

▶年間推計800万トンのプラスチックが世界の河川等から海洋に流入しており、このままでは、2050年には海洋中のプラスチックが魚の量を上回る見込みです。

市の取り組み

市内で稼働中!

容器包装プラスチック中間処理(圧縮梱包)施設

市ではJR横浜線以南の地域で容器包装プラスチックを回収し、南町田にある「リレーセンターみなみ」に設置した容器包装プラスチックの圧縮梱包設備で中間処理を行い、資源として搬出しています。今後、同様の施設を整備し、回収を市内全域に拡大することで、プラスチックの資源化をさらに進めていきます。

2022年1月稼働予定の町田市バイオエネルギーセンターで

資源化できる製品プラスチックを選別します

現在建設中の町田市バイオエネルギーセンターの不燃・粗大ごみ処理施設では、不燃ごみ・粗大ごみの中から資源化できる製品プラスチックを選別・回収します。



完成イメージ

夏は家庭ごみが増える季節です

●マイボトルを利用しよう!

暑くなる夏は、飲料の消費量が増え、ペットボトル容器等の排出が増加します。

まずは、排出量削減のため、マイボトル等を利用して水分補給をしましょう。それでも出てしまったペットボトル容器等は、ごみにせずリサイクルしましょう。

●におい対策には生ごみの水切りが重要!

生ごみの80%は水分で、ひと絞りするだけで8%の水分を減らすことができ、においの軽減やごみの減量につながります。

ステイホームでごみの量が増加!?

新型コロナウイルス感染防止のため、外出を控えて家で過ごす時間が多かった今年の4月、市内のごみの量が前年同月比で8%増加しました。食事のテイクアウトやデリバリーの増加等で、プラスチック製容器の排出量が増えたことも一因と考えられます。

市民の皆さんからごみ収集作業員へ

たくさんのお心遣いをいただいています



たくさんの激励の手紙やマスク、あたたかいお声掛けをいただき、ありがとうございます。

問 3R推進課 ☎797・7111

ごみ減量の最初の一步。プラスチックやごみのこと、もっと知ろう!

●町田市ごみ分別アプリ

資源とごみの分別・収集日の確認ができるアプリです。出したい資源やごみを用語・種類から検索し、分け方・出し方を確認することもできます。



Android版



ios版

また、台風や降雪などの荒天時の収集情報や、リサイクル関連のイベント情報などをお知らせします。

●SNSでごみや環境に関する情報を配信しています

Instagram・Twitter「町田市ごみナクナーレ(町田市公式)」

ごみの分別や収集状況などをお伝えします。



Instagram



Twitter



町田市エコキャラクターハスのん



Instagram



Twitter

Instagram・Twitter「ハスのん(町田市公式)」

エコ情報やハスのんの日常をお届けします。ハスのんの意外な一面が見られるかも!

ご存じですか? SDGs

SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS(持続可能な開発目標))とは、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際的な目標で、17のゴールがあります。

プラスチックを適切に使用し、適正に排出することは、17のゴールのうち右の4つにあたります。将来にわたって持続可能な社会を作り上げるため、一人ひとりがつかう責任を考え、できることから始めてみませんか。

